

# 紫の食用菊 普及目指す

八戸

階上町の菓子店「ラ・ドゥル」八戸市内で販売している。小松代表は

セリア美松」の小松國男代表は先月から、紫色の食用菊「パープルマム」の普及を目指し、八戸工業大の学生がデザインした専用ラベルを付けた生花を

## 八工大生考案のラベル活用

### 小松さん(階上)ら生産、販売

パープルマムは、食用菊「もってのほか」の改良種。小松代表と、同大工学部生命環境科学科の若生豊教授が2014年から共同研究している。現在は小松代表のほか、町内や新郷村の農家が生産している。

菊の品種ごとの成分や効能について長年研究している若生教授によると、抗酸化や抗アレルギーなどの作用がある成分「ルテオリン」が豊富に含まれる。さらに、脳の神経細胞の免疫をつかさどる細胞「ミクログリア」の炎症を抑制する働きも持つという。炎症は、認知症など神経疾患の原因になるとされる。

パープルマムの認知度アップを目指し、同大感性デザイン学部の学生が昨年11月、加工品用と生花用の2種類のラベルをデザイン。小松代表や町内の生産者らが、今シーズンから本格的に活用を始めた。今後の展開について小松代表は「研究で分かった効能を知ってもらい、健康的なイメージを広めたい」と意気込む。



普及を目指し、専用のラベル付きで販売されているパープルマムの生花

希望者には苗木を提供する。問い合わせは、小松代表 電話0178(88)21301へ。